

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年11月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100872
法人名	医療法人 永寿会
事業所名	グループホーム にこにこ
所在地	鹿児島県鹿児島市下伊敷一丁目11番3号 (電話) 099-208-8877
自己評価作成日	令和2年10月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○事業所の1階に病院があり、体調の変化がある時には早期の対応が図れている。週2回ドクターの往診がおこなわれており、ドクターとの関係性も図れている。全職員入居者様の体調の変化があった時に相談ができる環境にある。
○各ユニットに看護師が配置され、定期健診や病院との連携を図り、緊急時の対応など適切な医療をうける事が出来るように支援がおこなわれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は3階建てビルの2～3階にあり、1階は母体医療機関である。各ユニットに看護師が配置され、母体医療機関との24時間医療連携体制を図っており、緊急時も適切に対応している。
- ・コロナ感染症対策で地域行事が中止になり、事業所も保育園児やボランティア受け入れを見合わせている。地域との交流が制限されている中で、民生委員との交流で地域の情報収集に努めている。
- ・家族の面会制限はあるが、感染症対策を十分に取った上での短時間の面会や電話・手紙のやり取りをしている。事業所から写真等による近況報告を行うなど、家族との関係が途切れないように取り組んでいる。
- ・管理者及び職員は、利用者が自分のペースで生活し、できることは自分で行う等、残存機能の保持と自立支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に地域の一員として唱えており、目の付く場所に提示し全員で朝の申し送りの時に唱和している。地域との交流体勢あり。	理念をホールに掲示し、毎朝唱和している。朝の申し送り時や毎月のフロア会議で気付いたことについて話し合い、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とまではいかないが民生委員さんを行事や運営推進会議に招き、交流の核とし地域にある施設という事を大切に考えている。コロナの影響で今年は実施しておりません。	地域行事はコロナ感染症対策で中止となっているが、地域の情報を得られるよう民生委員との交流は継続している。事業所への保育園児の来訪やボランティア受け入れは現在は見合わせている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	民生委員を通じ、地域の方の認知症に関する理解を得るべく情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催しグループホームの生活の様子や課題や改善点についての意見交換を行っている。コロナの影響で今年は実施しておりません。	会議を実施してきたが、コロナウイルス感染防止の為、事業所関係者のみの出席である。現状報告や課題報告等を行い、外部参加者へは書類を送付し意見等を聞いて、サービス向上に活かしている。電話や手紙などで結果報告し、議事録は利用者の家族にも送付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政との協力関係の重要性を認識し必要な協力関係を継続している。	市の担当者とは、窓口に向いて相談・報告を行ない連携を図っている。生活保護担当者とも同様に協力関係を築いている。研修等は参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会をミーティングの際行い、全ての職員は身体拘束についての認識を持っている。転倒の危険性が高い方にはタンバリンや鈴を使用している。ご家族様の許可を得ている。	身体拘束をしないケアについて指針があり、身体拘束廃止委員会を毎月開催し、研修会を年2回実施し意見交換をして、ケアを振り返っている。外に出たい素振りの利用者を察知したら散歩に同行する等で、行動を制限しない支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権や虐待の及ぼす影響も勉強会を通じて学んでおり、防止出来る環境にあり見過ごされることがない環境を整える。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は成年後見制度・権利擁護について研修を受けており必要に応じて活用している。成年後見制度を現在利用されている方がおりより身近に感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時には契約書を読み合わせ、疑問点があれば質問出来るようにしている。解約や改正が必要になった場合も十分な説明を行い納得していただけるようにしている。今回は約3時間にわたり話をした方もいました。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入口にご意見箱など設置したりご家族が気軽に意見が言える様に、全職員に家族とのコミュニケーション作りを指導している。意見があった時にはミーティング等を開き改善出来る方法を見いだせるように努力している。	利用者には、介護相談員の面談や日々の会話で要望を聞いている。家族からの面会や近況を知りたいとの要望には、玄関で間隔を取っての面会や携帯を利用してもらうなどの対応をしたり、事業所から電話や写真で近況を知らせるよう工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回ミーティングを開催し意見を出せる機会を作っている。運営、業務の内容や方法も職員間の協議を重視し反映するようにしている。	管理者は職員と日頃からコミュニケーションを図り、意見を出しやすいよう心がけている。毎月のフロア会議で職員の意見を聞いている。年1回の個人面談も行っている。提案や要望は素早く対応し、運営に反映するように努めている。備品購入等に反映している。喜寿等の祝い着を作り行事を華やかに彩った。個別相談は管理者が受けて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個人面談を行い個人の目標をきき、サポートを行い、一人一人の努力や実績を収入へ反映できるようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修を月1回行い、外部研修参加の紹介を行っている。様々な外部研修に参加しているが今後は内部研修を充実とOJT制度導入を検討する。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修にて同業者との交流の機会がある。相互訪問については今後取り組んでいく予定であり、サービスの質の向上に繋がるように努める。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との事前面談で得た情報を基に、ご本人様、ご家族様との信頼関係が築けるように努力している。月1回の便りだけでなく電話も活用しながら思いをくみ取る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、困っている事や不安に思っている事などを聞く機会を設けている。これまでの介護に対して理解しながら安心できる関係性を作れるように努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時優先順位を考える。お互いに始めは手探り状態の為、はじめは1か月プラン（慣れる）を作成し、徐々に見直しを行いながらその時、最も必要と思われる点を重視し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを十分に行い「出来ること」「残存機能」を理解し物理的環境や心身の環境を整える。出来る事を見極める。個性を大切にしながら共同生活が送れるように努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様、ご家族様、職員が同じ思いでつながる事が大切とかがえており信頼出来る関係性が作れるよう努力している。共に支えあう事が重要との思いです。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響がなかった時には面会等があるとご本人様の居室で過ごしてもらっておりました。今年はコロナの影響で面会は基本禁止ですが、玄関を開け検温、マスク着用を確認し距離をとって顔を見る。短時間の面会は認めております。電話で声を聞かせたり、ハガキは代読したり、部屋に飾ったりしている。	コロナウイルス感染防止の為、面会制限をしているが、感染症対策を取った上での短時間面会や電話・手紙のやり取りを支援している。事業所からも電話や写真で近況報告を行って、家族との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の趣味や現在の能力等を見極めながら、席の配置をしたりして交流が図れるように環境を整えている。職員も入居者様と多く会話をすることで思いをくみ取れるようにしている。入居者様同士が談笑している場面が多くみられるようになっている。物作りも先生や生徒になって支えておられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人のサービスが終了してもご家族様からの要望等がある時には真摯に対応している。こちら側から電話で状況を聞いたりする事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や何気ない一言、表情（非言語）も重要視している。定期的にモニタリングをすることでご本人様の思いをくみ取る事が出来るように努めている。	食事やくつろいでいる時の会話及び自分から進んで話し掛けてくれる等、本人の思いを把握できるように努めている。困難な場合は、表情や仕草等から汲み取るようにして家族とも話し合い、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様やご家族様に生活についての聞き取りを行い生活環境やサービス利用の経過等も把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	危険行為や不穏等、負の要素にばかり目を向けるのではなくプラス面にも目を向ける。多方面からの支援が出来るように努力していく。一人一人の力を職員が把握しきれてない状況もあり。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員からのモニタリングを参考に計画作成担当者が総合的な視点でモニタリングを行い介護計画を作成している。実施前に担当者会議を開き協議を重ね介護計画に反映している。多職種からの意見も取り入れるようにと努力している。	本人や家族等から把握した希望を基に、職員で担当者会議を実施して主治医・看護師・家族と相談しながら介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月に1回計画を見直している。利用者の状況変化時にも現状に即した計画になるよう見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は本人様が発した言葉だけでなく表情等も記録に残し、必要な情報の把握やケアの計画見直しに役立つようにしている。特に非日常的な出来事は具体的に正確に伝わるように書くようにする事で共有できる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の思いや状況の変化を把握しながらケアを行っている。全職員からケアについての意見を聞く事で入居者様の思いや考えを多角的に捉え柔軟なサービスの提供につながる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや保育園の慰問等の受け入れを行っている。地域資源の活用の在り方について今後勉強していく事が必要と思われる。マンネリ化していると思われるため。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1階が病院の為、定期的な受診を行っている。入居者様の状態変化時にも早急な対応が出来る。専門医受診に関してはご家族様の協力を得ながら、定期的な受診が出来るよう対応を行っている。	契約時に希望のかかりつけ医を確認している。母体医療機関からの週2回の往診や24時間医療連携体制により、適切な医療を受けられるよう支援している。専門医受診は家族の協力を得ながら対応し、歯科の訪問診療もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>各ユニットに看護師を配置している。病院（外来）の看護師との連携も図り、入居者様の情報交換を行っている。気づきの点では看護師のみだけでなく介護職の気づきも大きい。共有しながら支援を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時サマリーを作成し情報の提供を行っている。入院後はお見舞いに行ったりして状態の確認を行ったり入院先の病院とも連携を図り、入居者様が安心して生活できるための情報交換等を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化の介護について同意を得ている。重度化した場合は本人、ご家族様と再度話しあいケアプランの見直し作成を行う。本人様の意思確認が難しい時にはご家族様と相談し将来の状態について説明し事業所が出来る事、出来ない事についても説明している。</p>	<p>入所時に重度化等の場合の対応について説明し、同意を得ている。状況変化時には主治医から家族に説明し、本人・家族の意向を優先し、家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。看取り介護の事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員が個々に救急法（応急手当）について研修に参加したりしている。急変時のマニュアルに基づき行動出来るようにしている。又、事例に基づき対処方を指導している・・・ドクター。看護師</p>			
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し年2回の避難訓練の計画、実施し消防署や消防設備会社から避難方法と必要な知識の習得の為の指導を受けている。</p>	<p>年2回の避難訓練を昼夜想定で実施し、消防署の立ち合いが1回ある。消防設備職員の指導を得て行っている。災害時の対策について研修を実施し職員の理解と経験を積んでいる。近隣住民の協力体制はあるが、今年度はコロナウイルス感染防止の為、声掛けはしていない。非常用の備蓄は、水・缶詰・レトルト食品・カップ麺を確保している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が誇りや人格の尊重、尊厳の保持、プライバシーの保護についての意識を持っている。個別性を重視。一人一人違って当たり前。しかし、職員の体調等も関係しているのか言葉かけが強くなる方も時々いる。	研修を実施し、利用者のペースに合わせて支援することを基本にしている。さん付けでの呼びかけや入浴の同性介助等、人格の尊重や羞恥心に配慮している。申送りはイニシャルを使用し、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶や食事の時間、レクレーションなど折に触れてコミュニケーションを取っている。普段の会話を大切にすることが思いの表出となり自己決定に繋がるケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が各自の得意分野を活かし入居者様のペースや趣向、希望を大切にしながら生活を支援している。入居者様に寄り添う支援をするように日々努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入居者様の自己決定を尊重している。意思決定の難しい入居者様については担当職員が中心になって支援がすすめられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の誕生日には、その方が食べたいと希望されたものを提供しお祝いしている。又、季節を感じるメニューを心掛けている。日々の食事は入居者様の状態観察を行い、食事形態を変えたりして対応している。刻み食やトロミ食の提供など。	献立は職員で作成し、旬の食材を使い個々に合った形態で提供している。利用者も一緒にテーブルやお盆拭き・茶碗洗いを行っている。誕生会の特別メニューや季節の行事食等、食べる楽しみにも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形態は各自に合わせている。アレルギーのある方については他の食材にするなど工夫している。栄養バランスを考慮している。水分摂取量の把握、食事摂取量についても確認している。好き嫌いについての聞き取りも事前におこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の重要性について職員が理解しており毎食後に口腔ケアを行っている。自立支援の範囲内で支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は尊厳保持に繋がることなので認知症の進行と関係性も考慮しながら支援を行っている。入居者様の状況を考慮しながら支援の在り方について職員間で話しながら対応している。	昼夜共にトイレでの排泄を基本に支援している。チェック表でパターンを把握し声掛け誘導や確認を行っており、できることは本人にしてもらい、見守り支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が心身に及ぼす影響について職員が理解しており、毎日排便チェックを行っている。飲食物の工夫や集団での運動や個人に合わせた生活リハビリを取り入れて予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴介助者を同性にするなど工夫し対応している。入浴順番も入居者様の意向に沿うように対応している。長湯が好きな方は最後の方にするなど工夫しゆっくり入っていただくように支援している。	入浴日は週2回、午前中となっているが利用者の入浴順番や湯温・入浴時間は体調や意向に合わせて支援している。体調や必要に応じ清拭・足浴を実施し、同性介助にも対応している。入浴を拒む利用者には職員の交替や無理強いしないような入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のこれまでの生活習慣を尊重し安心して眠れる環境を提供している。室温や温度にも各自の体調や個性を重視し調整している。昼夜逆転の方については昼間、活動的に過ごしてもらう等の対策をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週1回の定期診察の際、院長が状態を観察し服薬の目的を入居者様や職員に伝える。職員には副作用、用法、用量についての指導がある。不在者にはノートを通じて申し送りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせ自立支援を心掛け、洗濯物をたたんだり下膳したり、お盆拭きをしたり等それぞれが出来る事で役割を持たせる。複数のレクリエーションや散歩などで気分転換を図る支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常生活の中で散歩に行ったり、花見等の外出もある。普段できない場所に行く時など今後ではご家族様の協力についても考えていきたいと思っています。ご家族様との外出や外泊も昨年までは認めていたがコロナの影響もあり今年全てが出来ない状況となっている。	コロナウイルス感染防止の為、現在は、これまで出かけていた散歩や花見・外食、家族との外出ができない状況である。しばらくは、事業所内で季節を感じられるような取り組みを工夫していく計画である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に預かり金として小口現金を預かっている。収支については毎月、請求書送付の時に納帳につけて報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方のご家族様とは電話でお話してもらっている。携帯電話利用者は現在いないのですが禁止にはしていない。ハガキが来たりするので職員が代読したりしている。身近にとの思いから居室へ張ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面製作は職員と入居者との共同作業でおこなっている。月ごとに壁面の飾りを変えている。季節感を重視している。席配置は入居者様の性格等を考慮し決定している。状況をみながら行うため、席の配置換えも状況で変わる。	共用空間は明るく、十分な換気をしながら温度・湿度をこまめに調整している。毎月、職員と利用者が一緒に季節感のある壁飾りを作成している。数ヶ所にあるソファや自席・居室等の好みの場所で席の組み合わせも配慮し、ゆっくりくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が交流できるようにレクレーションの内容の工夫をおこなっている。入居者同士で談笑している場面をよくみるようになってきた。お互いが心地良いと思える環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとって馴染みの物を持参して頂きこれまでの生活環境を崩さないように配慮している。毎朝の清掃や週1回の寝具交換も行っている。	居室には、ベッド・タンス・エアコンが備えてあり、寝具はリースで週1回の交換で清潔に保たれている。本人の好みで、写真や作品・時計等や本人の好みの物が持ち込まれている。季節ごとの衣替えがやり易いように家族と話し合いながら取り出しに工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の個性や身体機能を理解し居室の提供を行っている。日々状態確認を行い、状況に応じて福祉用具の相談等を行っている。エアコンの当たり具合や身体状態に応じ、ベットやタンスの配置替えを行う事もある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない